

解答欄

問 1	<p>ガスボンベ中は高圧のため、炭化水素は液体として存在している。これらがボンベ外の大気中に放出される際、気体に変化して燃料用ガスとして使用できる。</p> <p>3つの炭化水素では、単位質量当たりの発熱量に大きな差はない。一方で、沸点と蒸気圧に大きな差がある。寒冷地では、ブタンよりも常に蒸気圧が高い 2-メチルプロパンを用いると、単位時間あたりにボンベ外へ吹き出る気体の量が多くなり、単位時間当たりの発熱量は大きくなる。</p> <p>さらに気温が低い氷点下では、ブタンの沸点は-0.5°Cと水の凝固点に近いので、ボンベ外に放出されても気体に変化しない。そこで、より沸点の低い2-メチルプロパンやプロパンを用いる必要があり、2-メチルプロパンより低沸点で蒸気圧の高いプロパンを用いれば、単位時間当たりの発熱量が大きい安定した火力が得られる。</p>
-----	---

記述過程によって部分点を与える。

(記入しないこと)			

(記入しないこと)
